

第25回茨城大会役員
事務局長 光野公司郎
事務局長代理 岩井信康、田邊泰
事務局次長 増田泉、篠原京子
会計 小川智勢子、西山悦子
書記 大木真智子、瀧沢葉子、渡辺真由美
事務局 高橋秀一、西山明人、石田寛明、長谷川祥子、
國府田祐子、大貫眞弘
大会実行委員長 大内善一(茨城キリスト教大学)

今年も残すところ数日となりました。学会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

事務局通信第45号が大変遅れたことを深くお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

昨年の7月19日(日)に、茨城キリスト教大学において日本言語技術教育学会第25回大会(茨城大会)が開催されました。理事会で審議・決定した「言語技術が見える授業づくり—『大造じいさんとがん』『和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—』で身につけさせる言語技術」をテーマに、説明文教材で二つ、文学教材で二つ、計四つの模擬授業、提案授業の検討、総括討論という日程で行われました。148名の参加者を迎え、熱心な討議が行われました。

今年度から、事務局が東京神田支部から茨城支部に変更となりました。理事会の承認を得て、前号(第44号)から通信の発送を1年に1回とし、ホームページの掲載となっております。既に第46号が掲載され、本号と前後し、ご迷惑をおかけしております。何卒、よろしくお願いいたします。

本学会のホームページのアドレスは次のとおりです。ご活用ください。

<http://nggkg.net/>

ここでは前々回25回大会(茨城大会)の報告などを「事務局通信」としてお送りいたします。

I 日本言語技術教育学会「第25回大会(茨城大会)」終わる

2015年7月19日(日) 会場: 茨城キリスト大学
言語技術が見える授業づくり
—「大造じいさんとがん」「和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—」で身につけさせる言語技術—

1 大内善一会長からのメッセージ

日本言語技術教育学会の皆様

第25回茨城大会では、皆様の積極的なご参加により盛会のうちに開催することが出来ました。ご参加下さった皆様には心より感謝申し上げます。

また、茨城大会のアンケートへのご協力もまことにありがとうございました。

事務局通信第45号は、学会事務局の移転に伴い、刊行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。先に刊行しました第46号と併せてお読み頂ければ幸いです。なお、この第45号の編集は前事務局に担当して頂きました。前事務局の神田支部の皆様には、これまでの事務局の運営に関しまして厚く御礼を申し上げます。

言語技術教育の要諦は、つまるところ教師と子ども達のことば遣いの精度を高めていくところにあります。ことば遣いの精度を高めていくことが、国語教育はもとよりあらゆる授業の向上発展に寄与するはずであります。

なお、来年、2017年名古屋大会は、7月29日(土)に開催されます。皆様の積極的なご参加によって、充実した大会にして頂きたいと存じます。会員の皆様のご協力をお願い致します。

2 第25回大会の日程

9:20 受付開始

第一部

10:00 模擬提案Ⅰ～Ⅱ、提案授業の検討

授業Ⅰ 10:00～10:20(20分) 松澤正仁(愛媛県・下灘小学校)

授業Ⅱ 10:25～10:45(20分) 市毛勝雄(埼玉大学名誉教授)

提案授業の検討 10:55～11:55(60分)

司会(兼討論者) 柳谷直明(北海道・妹背牛小学校)

授業者 松澤正仁・市毛勝雄

登壇者 今井東(群馬県・旭小学校)・小森茂(青山学院大学)

照井孝司(せせらぎ国語教室)・中村孝一(常葉大学)

11:55 諸連絡、昼食場所・総会案内

12:00 昼休み、理事会(6号館6201号室)

13:00 学会総会(6号館6202教室・会場)

(活動報告、会計報告・予算案の審議等)

第二部

13:20 模擬提案Ⅲ～Ⅳ、提案授業の検討、総括討論

授業Ⅲ 13:20～13:40(20分)

岩下 修(京都府・立命館小学校)

授業Ⅳ 13:45～14:05(20分)

佐藤 康子(青森明の星短期大学)

提案授業の検討 14:15～15:15(60分)

司会(兼討論者) 野口芳宏(植草学園名誉教授)

授業者 岩下修・佐藤康子

登壇者 光野公司郎(共栄大学)・佐藤洋一(愛知教育大学)

長谷川祥子(北海道教育大学)・渡邊洋子(常磐大学)

15:15 休憩(10分)

15:25～15:55 総括討論(60分)

司会(兼討論者) 大内善一(茨城キリスト教大学)

登壇者 鶴田清司(都留文科大学)・望月善次(学会理事)

・第一部、第二部とも前半が模擬授業、後半がその検討で、「大会テーマ」を解明し深め、総括討論でまとめる。

・参加者との意見交流も含め、言語技術による教育改革等について問題提起を行う。

16:00 閉会の挨拶 大内善一

16:05 諸連絡、懇親会案内他

16:30～17:30 懇親会

3 第25回総会

大会の中で総会がありました。そこでご承認された決算と予算を掲載します。

2015年度 決算報告

2015年7月19日(日)

日本言語技術教育学会事務局長 光野公司郎

(学会会計) 小川智勢子・西山悦子)

「2015年度」は第24回大会当日の2014年8月11日から2015年7月18日までです。今回の決算には第24回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第25回大会の参加費、経費等は除いてあります。第25回大会参加費、経費等は来年度の決算で報告致します。

I 収入	計 1, 525, 487円
(1) 前年度より繰越金	639, 487円
(2) 第24回京都大会参加費	847, 500円
4000円(当日会員参加費) × 43人 = 172,000円	
4500円(当日非会員参加費) × 121人 = 544,500円	
3000円(学生参加費) × 5人 = 15,000円	
4000円(懇親会費) × 29人 = 116,000円	
(3) 新規会員学会費	12, 000円
3000円 × 4人 = 12,000円	
(4) 『言語技術教育』22号・23号・24号頒布代	26, 500円
500円 × 53冊 = 26,500円	
II 支出	計 598, 508円
(1) 第24回京都大会経費	487, 949円
①立命館大学施設使用料(振込手数料含む)	71,928円
②通信連絡費	31,613円
③事務備品・名札代等	9,719円
④看板・表示代	0円
⑤封筒代	6,273円
⑥理事、事務局弁当代	38,016円
⑦人件費	0円
⑧懇親会費	116,000円
⑨宣伝費	108,000円
⑩『言語技術教育』24号印刷代	106,400円
(2) 文具代・コピー代等	6, 783円
(3) 通信費(理事会・事務局通信印刷・発送費、理事宛て速達・連絡、その他)	
	54, 910円
(4) 会議費(9/6理事会費用)	48, 866円
III 繰り越し金	計 926, 979円

収入計：1, 525, 487円－支出計：598, 508円＝926, 979円

以上

2016年度 予算案

2015年7月19日(日)

日本語技術教育学会事務局長 光野公司郎

(学会会計 小川智勢子・西山悦子)

「2016年度」は本日第25回大会当日の2015年7月19日から来年度第26回大会の前日までです。今回の予算には第25回大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第26回大会の参加費、経費等は除いてあります。第26回大会参加費、経費等は来年度の予算に組み入れます。

I 収入 計 1,886,979円

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| (1) 前年度より繰越金 | 926,979円 |
| (2) 第25回大会参加費(見込み) | 930,000円 |
| 4000円(当日会員参加費) × 80人 = 320,000円 | |
| 4500円(当日非会員参加費) × 100人 = 450,000円 | |
| 2000円(学生参加費) × 20人 = 40,000円 | |
| 4000円(懇親会費) × 30人 = 120,000円 | |
| (3) 新規会員学会費(見込み) | 30,000円 |
| 3000円×10人 = 30,000円 | |

II 支出 計 1,886,979円

- | | |
|------------------------|----------|
| (1) 第25回大会経費 | 550,000円 |
| (2) 文具代 | 50,000円 |
| (3) 通信費(理事会・事務局通信、その他) | 100,000円 |
| (4) 会議費(理事会、事務局会議等) | 200,000円 |
| (5) 諸雑費(印刷費、アルバイト代等) | 100,000円 |
| (6) 予備費 | 886,979円 |

以上

Ⅱ 『言語技術教育 第25号』

第25回大会に合わせて『言語技術教育 第25号』を冊子として作成しました。その目次を紹介いたします。ご覧になりたい方は、第27回大会（名古屋大会）などにて、『言語技術教育 第22号』特集「『単元を貫く言語技術』を解明する」、『言語技術 第23号』特集「言語技術が見える授業づくり—学力向上に役立つ言語技術—」、『言語技術 第24号』特集「『文学教材の授業で身につけさせる言語技術』とは何か—『ごんぎつね』を例に—」、『言語技術 第25号』特集「言語技術が見える授業づくり—『大造じいさんとがん』『和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる—』で身につけさせる言語技術—」を販売いたします。（各500円の予定）

はじめに／市毛 勝雄

第一部前半 模擬授業と提案

説明文教材「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる—」

筆者の考えや主張を読み取る（指導案） 松澤正仁

筆者の考えや主張を読み取る（提案） 松澤正仁

資料を活用して説明する（読む・話す・聞く・書く）（指導案） 市毛勝雄
「論理的文章を書く」を目標にした「読みの授業」の提案（提案） 市毛勝雄

第一部後半 模擬授業に期待すること

具体と抽象の関係を読む 中村孝一

何を教え、どう育むのか 柳谷直明

多彩な活動に翻弄されずシンプルな指導を行う 高橋秀一

子どもが「分かる・使える」言語技術の明確化 照井孝司

若手教員が見て分かる言語技術の授業を 今井 東

教師の「教科力」と「授業力」 兵藤伸彦

モデル教材の有効性 國府田祐子

説明的文章における「学習用語」指導 富樫いずみ

言語技術を習得させる「学習用語」指導 渥美清孝

提案授業への期待 山下 亘

提案授業に期待すること 開田晃央

提案授業に期待すること～言語技術の見える授業～ 飯村真由美

思考の可視化で言語技術を身につける 川又智子

論理的文章をすらすら読んだり書いたりする指導技術を期待する 瀧沢葉子

「表現学習」につなげる論理的文章指導 岩井信康

読み書きの力が身につく提案授業を期待する 大木真智子

論理的文章の読み書きに役立つ言語技術の習得 西山明人

言語技術の〈習得〉・〈活用〉評価の姿が見られる授業を 吉川和良

授業後の系統的・段階的な「言語技術」の明示を

石田浩一

第二部前半 模擬授業と提案

文学教材「大造じいさんとがん」

人物の心の変容を読解するための言語技術の活用法（指導案）

岩下 修

主人公の心の変容を読解させる言語技術・用語（提案）

岩下 修

言語技術を理解し、活用し、読みを深めるための指導（指導案）

佐藤康子

意欲をもって読み進める過程で身につく言語技術（提案）

佐藤康子

第二部後半 提案授業に期待すること

「受け」に注目したい

野口芳宏

二一世紀型能力（学力）と言語技術—物語教材を例に一

佐藤洋一

「大造じいさんとがん」言語技術に着目した指導の観点

渡邊洋子

文学的な文章の指導事項と言語技術との関係性

光野公司郎

文学教材の特質を教えている提案授業を期待する

長谷川祥子

俯瞰すること・分析すること

岩崎 淳

「大造じいさんとがん」で物語の読み方を教える

篠原京子

授業者の哲学が見える授業

大貫真弘

提案授業への二つの期待

富樫忠浩

教科内容を身に付けさせる授業を

和嶋康彦

提案授業に期待すること

高木輝夫

提案授業に期待すること

遠藤直美

一般性のある課題の学習を

田邊 泰

描写の楽しさを伝える技術

渡辺真由美

文学教材の授業で身に付けさせる言語技術の明確化

増田 泉

「大造じいさんとがん」で文学作品の読み方を教える

西山悦子

授業力が身につく提案を期待する

小林 哲

「朗読」で物語を自分なりに解釈し表現する

徳山大輔

リフレクションを取り入れ、自己の解釈を見直す活動の必要性

千崎晶美

「大造じいさんとがん」の特質をとらえた言語技術教育

藤井康次

第三部 総括討論

総括討論に向けた提言

大内善一

第四部 第24回大会の報告
編集後記

國府田祐子
光野公司郎

※第1号～第21号は明治図書から刊行されております。そちらもお読みください。

- 『言語技術教育 第1号』特集 言語技術教育でどんな力がつくか (1580円)
『言語技術教育 第2号』特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する (1794円)
『言語技術教育 第3号』特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する (1794円)
『言語技術教育 第4号』特集 この文学教材でこの言語技術を教える (2314円)
『言語技術教育 第5号』特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか (1682円)
『言語技術教育 第6号』特集 論理的思考力を鍛える作文技術 (1995円)
『言語技術教育 第7号』特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか (1890円)
『言語技術教育 第8号』特集 音声言語指導の教材開発・授業開発 (2058円)
『言語技術教育 第9号』特集 総合的学習を支える言語技術とは何か (2205円)
『言語技術教育 第10号』特集 総合的学習と「読み・書き」の技術 (2058円)
『言語技術教育 第11号』特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術 (1953円)
『言語技術教育 第12号』特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任 (1995円)
『言語技術教育 第13号』特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760円)
『言語技術教育 第14号』特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890円)
『言語技術教育 第15号』特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953円)
『言語技術教育 第16号』特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953円)
『言語技術教育 第17号』特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953円)
『言語技術教育 第18号』特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680円)
『言語技術教育 第19号』特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890円)
『言語技術教育 第20号』特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953円)
『言語技術教育 第21号』特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890円)
『言語技術教育 第22号』特集 単元を貫く言語技術を解明する (1890円)
『言語技術教育 第23号』特集 言語技術が見える授業づくり
—学力向上に役立つ言語技術— (500円)
『言語技術教育 第24号』特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か
—「ごんぎつね」を例に— (500円)
『言語技術教育 第25号』特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとがん」
「和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—」で身につける言語技術— (500円)

Ⅲ 日本言語技術教育学会 第27回大会(名古屋大会)について

開催日時：2017年 7月29日(土) 9:00～16:30

開催場所：名進研小学校 (名古屋市守山区緑が丘853-1)

1 参加申し込み方法、懇親会など

- (1) 第27回大会(名古屋大会)では【参加申込】を事前に行って頂いた方は、非会員に限り、参加費4500円を4000円とさせていただきます。
会員4,000円、非会員4,500円、学生2,000円。 懇親会4,000円。

- (2) 葉書として送付した「会員証」を、学会当日にお持ちいただき、受付でご提出ください。
受付では氏名・住所・会員か否か等の記載・確認をいたします。

- (3) 座席は先着順です。受付で案内します。必ず受付を通ってください

- (4) お問い合わせは学会事務局長 (開田晃央) まで(下記メールのみ)。

E-mail kouheiwaka@gmail.com

Ⅳ 理事会の日程

- ・日 時 2017年 7月29日(土) 12:00~13:00(学会当日)
 - ・場 所 名進研小学校
- ※ ご欠席される理事の方は、議事の審議・承認について議長にご一任いただきますよう、よろしくお願いいたします。

V 新規会員の申し込みについて

現在の日本言語技術教育学会員数は、630名程度となっております。本学会の特色は、研究者も現場の教員も社会人も、皆が同じ土俵に立って自由に意見を交換できることにあります。また、常に社会の要請をいち早く察知し、今日的なテーマ設定および提案をしております。

このような本学会に、ぜひまわりの方々を会員にお誘いください。

入会は、下記の口座に3000円を振り込んでいただければすべて完了します。

年会費制ではないので、一回振り込むだけです(電信振込はお避けください)。

事務局の変更に伴い、「銀行及び口座番号」が新しくなりました。お気を付けください。

「筑波銀行見和支店」 店番号104

口座番号： 1035206

※1 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

※2 会員の方のご住所・お名前は、随時整理しております。「事務局通信」が宛先不明で返送されてくる場合があります。転居や住所変更などの際は、お手数ですが事務局までお知らせください。ご連絡がない方については、学会退会と見なし「事務局通信」の発送等を取りやめさせていただいております(理事会での了解)。

VI 学会ホームページ新設

学会のホームページは以下のとおりです。ご活用ください。

日本言語技術教育学会ホームページ
<http://nggkg.net/>

VII その他

1 学会支部設立についての案内

現在、学会支部として、北海道支部(代表:柳谷直明)、茨城支部(代表:大内善一)、東京神田支部(代表:市毛勝雄)、名古屋支部(代表:佐藤洋一)があり活動中です。事務局としては、各地区での支部立ち上げを進めて参りたいと考えております。支部設立予定の先生方は、事務局宛にご連絡いただければと存じます。理事の方、会員の皆様、よろしくご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。